Countermeasures for COVID-19 in Sannai Maruyama Jomon Culture Center

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-04-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Iwata, Yasuyuki メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00061622

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

金沢大学考古学紀要 42　2021,　17-21.

特集：コロナ禍における博物館の実態と役割

三内丸山遺跡センターの新型コロナウイルス感染症への対応

岩田　安之
（三内丸山遺跡センター）

１　三内丸山遺跡センター臨時休館

令和２年の仕事始めから１０日ほどたった１月１６日に、日本国内で初めての新型コロナウイルス感染症者が確認された。２月５日からはダイヤモンド・プリンセス号の洋上隔離が始まり、正体のわからない感染症との向き合い方が模索されている中、三内丸山遺跡センターでは、翌年度の春季特別展「縄文マジカル」の準備などに追われていた。今後の感染症対策の方向性を検討している最中であったが、それでも２月中は、粛々と準備をしていたことを記憶している。また、ちょうど令和元年度冬季企画展「三内丸山ムラが一番大きかったころ」が行われていた時で、休日の専門職員によるギャラリートークも普段通り行っていたが、２月下旬からは少しずつ状況が変化していっていた。解説員の２月２３日の業務報告書には、「海外からのお客さまが減っている印象です」とある。

２月２７日には、当時の安倍首相が全国の学校に臨時休校を要請したことから、国内は外出自粛の空気が強くなった。三内丸山遺跡センターにおいて、状況が大きく変わり始めたのは３月である。３月に予定されていた当センターへの外部からの視察は悉く中止になっていった。また、３月１４日に開催予定であった三内丸山遺跡報告会、企画展のギャラリートークも中止となった。海外や年配の方々の見学者は減り、大学生などの若い世代の見学者が増えたのもこの時期で、その傾向に変化がみられた。

３月上旬には、接触感染の可能性が高いと考えられる、解説員が従来行っていたパンフレットの手渡しをやめ、３月下旬からは、縄文土器のハンズオン、縄文服、スタンプコーナー、さんまるライブラリー閲覧図書の撤去を行った。また、令和２（２０２０）年度の４月１８日（土）から６月２１日（日）までの開催予定であった令和２年度春季特別展「縄文マジカル」の開始中止を決定した。感染症の広がりで多少の心のざわつきはあったが、４月１８日に開催をするための図録制作や広報、展示品の借用などの準備を必死に進めていたものであった。この特別展の開催に向けて、出土品の借用や写真撮影などで協力をしていただいていた関係機関に特別展中止の連絡をする時は、できなかった申し訳なさや悔しさがこみあげてきて、何よりもこたえたことを記憶している。図録だけが残ったことがせめてもの救いであった。ちなみに、特別展の中止が決まった４月３日の翌日から筆者は３７度前後の微熱が続き、４月１３日まで仕事を休んでいる。

このような経緯を経て、令和２（２０２０）年４月１１日から５月２０日（水）まで、三内丸山遺跡センターは臨時休館となった。

令和２年度春季特別展を紹介する大型パネル

床面サインの撤去

２　再開に向けて−三内丸山遺跡センターの新型コロナウイルス感染症対策−

５月２１日の再開に向けて三内丸山遺跡センターは、「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」（令和２年５月１４日付け公益財団法人日本博物館協会作成　令和２年５月２５日改定　令和２年９月１８日改定）に基づき、ガイダンス施設である縄文時遊館や遺跡などについてリスク評価を実施し、それに応じた対策を講じることとした。

接触感染、飛沫感染について、ガイダンス施設である縄文時遊館と遺跡、旧展示室と大きく３つに分け、縄文時遊館は、さらに　①エントランスー遺跡入口、 ②常設展示室、 ③増築棟、 ④さんまるライブラリーー縄文時遊館出口と４か所にゾーニングをしてリスク評価を行った。また集客施設としてのリスク評価も併せて行った。その結果、縄文時遊館では、チケットカウンターやトイレ、休憩スペース、常設展示室の手すり、遺跡では露出展示が行われている覆屋のドアノブなどが接触感染のリスクが高いと考えられる場所として整理されていった。飛沫感染については、見学者の滞留時間が長いチケットカウンターや会話の行われる総合案内、密になりやすい展示室などがあげられた。このような評価に基づいて、手指消毒の推奨の掲示、手指消毒用アルコールの設置、定期的な消毒作業の実施、チケットカウンターや展示室におけるフロアマーカーの設置、総合案内などのカウンターへの遮蔽板の設置、トイレのハンドドライヤーの使用中止、休憩スペースなどのイスやテーブル数の削減、アンケートやハンズオンコーナーの撤去などの感染症対策を講じた。

また、５月４日の内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室長からの事務連絡「緊急事態措置の維持及び緩和等に関して」中の別紙２「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」を受けて、開館後の対応を整理した。サーモグラフィカメラを設置し、入口で高熱が確認された場合は入場を控えてもらうことや、貸出備品などの消毒の徹底、トイレの蓋を閉めた後の洗浄のお願いを掲示、人と人との間隔を２m以上とることやアルコールによる手指の消毒のお願いのアナウンスなどを実施し、センターの再開に向けて、徹底した感染症対策を講じていった。

何よりも心がけたのは、従来通り、またはそれ以上に安心して三内丸山遺跡を楽しんでもらうために、現時点で万全を期すことであった。

３　特別史跡指定２０周年記念企画展「三内丸山と大湯　−縄文の大集落からストーンサークルへ−」修正開催

以上のように、５月以降、政府の緊急事態宣言の段階的解除とともに、三内丸山遺跡センターも５月２１日に再開した。

三内丸山遺跡は平成１２（２０００）年１１月２４日に特別史跡に指定されているが、令和２（２０２０）年は指定後２０周年の節目の年であり、夏季にはそれを記念して、特別史跡指定２０周年記念特別展「三内丸山遺跡と大湯環状列石」の開催が予定されていた。しかし、センターも再開したとはいえ、春季特別展「縄文マジカル」が中止となり、県内外から多くの集客を促す特別展をこの状況下で開催するかが問題となっていた。また、首都圏など、県外からの展示品の借用も予定されていたため、職員の感染リスクも高くなることが懸念されていた。そして５月１４日に

エントランスでの検温実施

総合案内設置のアクリル板

は、特別展を中止することとなった。それでも、年に２回の特別展をすべて中止にしてしまってよいのか、特別史跡指定２０周年ということで三内丸山遺跡センターとして何かできないか、という考えもあり、記念特別展の規模を縮小するなどの工夫をして、青森県民を対象とする、新しい生活様式に対応した企画展としての開催を決定した。展示品の借用先は大湯ストーンサークル館からの１か所のみとし、解説パネルの字を大きくするなど、ソーシャルディスタンシングを保ちやすくすることや、見学者が密にならないように展示品の配置や観覧動線を工夫するなど、今後の新しい生活様式にも対応していくための実験的な展示ともなった。特別史跡指定２０周年記念企画展「三内丸山と大湯　−縄文の大集落からストーンサークルへ−」と名称も変更し、令和２（２０２０）年７月１８日から１１月８日にかけて開催した。日本に４つしか存在しない縄文時代の特別史跡の２つであり、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の中心的な構成資産でもある三内丸山遺跡と大湯環状列石の特徴についてランキング形式をまじえながらわかりやすく紹介した展示であった。ありそうでなかった２つの特別史跡をあわせた展示は、特別史跡２０周年記念の企画展としてふさわしいものであったと自負している。

４　入場者数の推移

４月１０日から５月２０日まで、三内丸山遺跡センターは休館し、５月２１日から再開したのであるが、６月からは徐々に入場者が増加していった。６月は前年比約１５％、７月は３５％、８月は２４％であったものの、９月は６４％、１０月は９２％、１１月は９８％と１０月からはほぼ前年並みに戻った。ちなみに８月の落ち込みは、毎年行われているねぶた祭りが中止になったことと、お盆の青森県への帰省が減ったことが原因と考えられる。

修学旅行などの学校関係の団体見学者は、９月、１０月は増加しているため、全体的に、９月からは通常通りに近い見学者の動向に戻りつつあるといえる。９月の４連休は毎日千人を超える入場者があり、遺跡はいつもの賑わいを取り戻していた。

５　コロナ禍だからこそできた新しい活用

三内丸山遺跡では、三内丸山応援隊が普段は１時間ごとに遺跡のボランティアガイドを行い、解説員がミュージアムの定時案内を１日２回行っていた。応援隊のボランティアガイドは、屋外で飛沫感染のリスクも少ないということで６月２０日（土）から再開したが、ミュージアムのガイドは屋内でリスクも高くいことや、見学者の間隔をあけると１人程度のガイドしかできないことから、現在も中止したままである。ミュージアムの定時ガイドは、遺跡のガイドと同様で見学者の理解を助けるだけではなく、解説員の説明力の向上などに資するものであるため、これに代わるものを模索していた。最近は、スマートフォンの普及率が高いため、ＱＲコードを利用した出土品の解説を実施することとした。ＱＲコードにスマートフォンをかざせば、解説員が出土品を指さしながら解説を行っているようすが音声付きの動画でみられるというコンテンツである。解説員に似せたアバターも掲示して紹介しているため、見学者も楽しみながら安心して解説を見ることができる。

また、三内丸山遺跡にはＩＴガイドシステムというＶＲ（バーチャル・リアリティ）で縄文時代の集落の

さんまるミュージアムのフロアマーカー

企画展入口のようす

風景を見ることができるタブレット端末がある。人と距離をとって遺跡を楽しむことができる端末であるため、新型コロナ感染症対策を講じながら使うことに大変適している。そのため、現在、コロナ禍の中でも遺跡の魅力が十分に伝えることができるように、ＡＲなどの新たなコンテンツの追加作業を進めている。

このように、普段であれば気づかないコンテンツのアイデアが生まれ、早急に実行できたのも、コロナ禍があったからともいえる。今後も、デジタルミュージアムなど、コロナ禍を逆手にとった遺跡の活用を図っていきたいと考えている。いつも縁遠いと考えていた若年層が遺跡に来てくれるようになったのも大きなチャンスである。従来、若年層が好む場所であるショッピングやカラオケ、おしゃれなレストランなどへ行くことが自粛期間には敬遠され、オープンスペースの遺跡なら大丈夫というマインドが働いたためとも考えられるが、若い世代自身の新たな価値の気づきととらえることもできる。この機会をとらえて、若い世代にも楽しんでもらえるように、魅力的な遺跡の価値をどのように伝えていくかを考えていくことも今後の私たちの使命でもある。

展示のようす

QR コードを利用した展示の解説

新型コロナウイルス関連の出来事と三内丸山遺跡センターの対応

年	月日	出来事	三内丸山遺跡センターの対応
2019	12 月	中国湖北省・武漢市で原因不明の肺炎患者確認	
2020	1 月 16 日	国内初の感染者を発表	
	2 月 5 日	「ダイヤモンド・プリンセス号」横浜沖で 14 日間の船上隔離開始	
	2 月 13 日	国内初の死者確認。感染経路不明の事例相次ぐ	
	2 月 27 日	首相が全国の学校に臨時休校を要請	
	3 月 11 日		パンフレットの手渡し休止。ラックに収納したものを見学者にとってもらうこととする。
	3 月 12 日	ＷＨＯが世界の流行状況を「パンデミック」認定	
	3 月 24 日		レストラン短縮時間営業開始（11 時～ 14 時）４月２８日まで。後に当面の間に変更
	3 月 25 日	東京・小池知事が緊急会見　週末の外出自粛を要請	
	3 月 27 日		縄文土器のハンズオン、縄文服、スタンプコーナー撤去。さんまるライブラリ閲覧図書の撤去。
	4 月 2 日		春季特別展「縄文マジカル」中止決定
	4 月 3 日	世界の感染者１００万人突破	
	4 月 7 日	政府が緊急事態宣言を発出（７都府県対象に５月６日まで）	
	4 月 10 日		三内丸山遺跡センター休館決定（４月１１日～５月６日）後に５月２０日までに変更
	4 月 16 日	政府が緊急事態宣言を全国に拡大	
	4 月 18 日	国内感染者１万人突破	
	4 月 22 日		在宅勤務開始　ローテーションで５月６日まで
	5 月 4 日	政府の緊急事態宣言５月３１日までの延長を決定	
	5 月 14 日		３９県（青森県含む）で緊急事態宣言解除
			夏季特別展「三内丸山遺跡と大湯環状列石」中止決定
			「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」（令和２年５月１４日付け公益財団法人日本博物館協会作成）に基づいたリスク評価開始
			５月４日の内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室長からの事務連絡「緊急事態措置の維持及び緩和等に関して」中の別紙２「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」に基づき開館後の対応について整理
	5 月 14 日～5 月 20 日		ソーシャルディスタンシングを保つためのフロアマーカーやサインなどの設置。消毒液設置
	5 月 21 日		三内丸山遺跡センター再開。入場時の検温実施。マスク着用の推奨。受付などに簡易遮蔽板の設置
			三内丸山遺跡センターのリスク評価策定
			リスク評価に基づいた、職員による時遊館と遺跡の消毒作業開始
	5 月 25 日	すべての国内の緊急事態宣言解除	
	6 月 1 日		第４４次発掘調査開始
	6 月 20 日		三内丸山応援隊ボランティアガイド再開
	7 月 1 日		サーモグラフィカメラを使用した検温開始
			レストラン「五千年の星」再開
	7 月 7 日		総合案内などに飛沫感染防止のためのアクリル板設置
	7 月 18 日		特別史跡指定２０周年記念企画展「三内丸山と大湯－縄文の大集落からストーンサークルへ－」開催（１１月８日まで）
	7 月 22 日	ＧｏＴｏトラベルキャンペーン始まる	
	8 月 1 日		８月１日から１７時までとしていた見学時間を通常の１８時に変更（６月～９月は９時～１８時の見学時間）
	8 月 22 日		さんまる縄文体験「縄文のムラの箱庭づくり」実施
	9 月 4 日		三内丸山遺跡イコモス現地調査